

令和7年度 第1回 京田辺市高齢者保健福祉計画委員会

議事録【要約版】

＊議題（１）令和6年度事業実績報告について

○質問・意見

【委員】資料1の2ページ、健幸パスポートについて、令和5年度の申込者数のうち、65歳以上の人数は何人か。

（事務局）この場には、昨年度の65歳以上の人数の資料を持っていない。資料作成時は、65歳以上で拾っている。

【委員】令和5年度の実績345人というのは、市民全員に対しての認識でよいか。

（事務局）そのとおり。令和6年度は全部で410人である。

【委員】令和5年度の345人から410人と増えてきている。その中の65歳以上が資料のパーセントで表記された数字か。

（事務局）65歳以上の人数は、令和5年度から6年度において少し伸び悩んでいるのが実情。

【委員】健幸パスポートの配布は対象者が市民ということになっている。市民全員が対象だが、高齢者の計画なので65歳以上として表示していると思うが、健幸パスポートを続けるのであれば、65歳以上ということよりも、市民全体の数字を具体的に知りたいと思った。

【会長】内容については健康増進計画、食育推進計画とリンクしているので、健康づくりというのが身体的な運動だけではなく、食、栄養、口腔にも密接に関わっている部分でもあると思う。健康づくりの充実で非常に重要な健幸パスポートなので、PRを行って、市民に目を留めていただいて、関心を持ってもらうようにするということである。

【委員】資料1の6ページ、「介護サービス内容の充実と質の向上」につい

て、介護の事業所で一番問題は、介護人材が集まらないことである。訪問介護、居宅などのほか、特にケアマネやヘルパーの事業所は人が集まらないのが実情。京田辺市は初任者研修を受けると補助金を出す事業と、市内の事業所に就職したら補助金をもらえる事業がある。これは近隣市町ではない素晴らしい事業。良い事業なので、もっとPRを。実務者研修が対象外ということなので、うまく拡大して、介護に携わる担う方を一人でも増やすために、もう少し充実させていただきたい。

【会 長】初任者研修だけでなく実務者研修にも広げていくと、より間口が広がって、本人にも施設やサービス事業者にとってもより良いのではないかというご意見である。介護人材のことについて、この計画の中に盛り込んでもよいのでは。

【委 員】資料1の5ページ、地域ケア会議について、「個別事例の検討を行う地域ケア会議における個別事例の検討件数」が目標よりかなり低いのは、どういう理由があるのか。6ページの「介護・福祉就職フェアの来場者数」について、目標が40人に対して、来場者が17人である。そのうち3人が就職できたというのはいいことだが、来場者数を増やす方法を次の計画にしっかりと入れていくことが必要。

(事務局) 個別事例の検討を行う地域ケア会議について、2種類ある。処遇困難ケースを扱う会議と、もう一つケーススタディと言う、実際に起きた事業をモデルにして、振り返りながら勉強するケースの2つのパターン。令和6年度は処遇困難なケースが2回あり、会議は2回おこなった。ケーススタディを行う会議について、昨年度は開催できていない。昨年度、短期集中C型わくわくチャレンジプログラムを作ることになり、それに向けての研修を重ねることで、モデルケースを扱う会議を開催する時間が無かったということが原因。

*議題(2) 第10期計画アンケート調査(素案)について

○質問・意見

【委 員】資料5の「記入に際してのお願い」について、「このアンケートは、あて名の方ご本人あるいは介護を主に行っている方が回答してください」と書いてある。13ページでは「主に介護を行っている人に

ついて、お伺いします」と書いてある。「主に介護を行っている方にお伺いします」という表現のほうが分かりやすいのではと感じる。

資料4の2ページの項目2「運動・外出について」Q1で、「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」とあり、Q2で「椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか」とある。Q1も「つかまらず」としたほうがいいのではないかと思う。

資料5の12ページ、「京田辺市は認知症の人が安心して暮らせるまちになっていると思いますか」の問に対して、「思う」「思わない」「どちらとも言えない」という選択肢よりも、「分からない」という選択肢を入れたほうがいいのではないかと思う。

【会 長】事務局で文言を整理していただきたい。昨年もアンケート項目が増えていたが、さらに増えてすごい量になっているが、資料4については、昨年度は7割近くの方が回答されており、資料5については約5割、事業者アンケートは6割くらいの回答をいただいている。それぞれ皆さんが一生懸命取り組んでいただいていて、感謝申し上げる次第である。そぎ落としたほうがいいものを探すが、なかなか無くて苦慮するところである。

【委 員】介護相談員について、今、施設はコロナの関係で訪問できるところが減っているが、これから徐々に増えていく可能性はあるか。

(事務局) 事業所には、今までどおりでという意向は伝えている。事業所の受け入れ体制が整えば、今までどおりにできると思うので、その方向に向かっていると考えている。

【委 員】サ高住や有料老人ホームなどもできる可能性があるということか。

(事務局) それについては今のところ予定していないが、機会があれば増やしていきたいとは考えている。

【会 長】全国的な流れでいえば、解禁している印象がある。介護相談員の受入が可となっている所が多くあって、今までは不可かもしくは時間を区切っていたが、最近は、面会時間と同じ時間で対応する事業所が増えている。どんな事業体でもこれから増えてくると思われる。

【委員】訪問すると利用者が喜んでいて、普段思っていることをいろいろ話してくれるので少しでも気が晴れるのではないかな。

【会長】施設の方が忙しいので、訪問したいと言うと考えてもらえるケースが多い印象があるが、音信が無ければそのままになってしまうことがある。相談員が行きたいとアクションを起こしてもらおうと調整がしやすいかもしれない。介護相談員の事業は、積極的に取り組んでいく必要がある。

【委員】アンケートの内容で、認知症の問題が大事だと思った。この前、認知症サポーター養成講座を地域でおこなったが、非常に関心が高かった。老人会で2回おこなったが、老人会以外の人も参加してくれた。その人をどのようにサポートしていくかという点が弱いので、認識を一致させることが大事だと思った。全国でどのようなことをしているか調べたが、熊本県の山鹿町では学校でもやっている。小中高校でも紙芝居などで、子どもたちにも分かるように工夫している。老人クラブに毎日来る人もいる。子ども相談の看板のように、高齢者が困ったときに相談できるような看板を掲げてもいいのではないかなと思う。

【会長】民生委員も活躍していただいているが、民生委員・児童委員の高齢化の大きな問題もある。

(事務局) 小学生や若年層に認知症のことを知ってもらうのが大事だと考えており、市内の各小中学校で認知症サポーター養成講座をおこなっている。市民よりも小学生を対象にしている認知症サポーター養成講座のほうが数が多い。

【会長】福祉部局と教育部局が合わさって福祉教育を進めていくことの大切さがある。一方、教育の部分で難しいのは、障がい受容で、あのような状態になるのは嫌だと思われることは、子どもにとっても困ることになる。誰もが安心して暮らせるまちになることが大事であり、福祉の教育は温かみのあるまちづくりにもつながるので、認知症と障がい受容というのは密接に関わっていく必要がある。

【委員】新型コロナを経て状況や環境がいろいろ変わるので、質問項目を減らせないかなと思うが、考えていくと増えていくのが実情である。新し

く増えた部分について、終活について相談を受けることが増えていて、遺産や墓じまいをどうするかということが多く、やはり必要だと思う。一番気になるのは、「認知症の人が安心して暮らせるまちになっていると思いますか」という質問に対して、そう思うのは、どういうところをそう思っているのか。また、そう思わないのはどの辺を改善したら住みやすくなるのか、そういう部分を知りたい。

【会 長】 具体的な内容を入れて自由回答のようにするといいかもしれない。

【委 員】 そう答えた方は何がほしいですか、どういうところに不便を感じますかというところに回答いただけるとよい。

資料4の7ページ、「日々の生活で下記のように感じることはどのくらいありますか」という項目で、感情について聞いている。日常生活で、楽しいことがあったときに書くと、楽しいと答えると思うので、結果に波が出てくる。「楽しいことがある」や「安心することがある」、「安心するものがある」のような質問であれば答えやすいであろう。「誰かとつながっていると感じる」のように、正直な気持ちが入るような日本語にするといいのではないか。

【会 長】 確かにそのとおり、抽象的になっている。

【委 員】 資料4の4ページ、Q6「歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください」について、自分で見て何本かというのは難しいと思う。「大体で良いです」の一言を入れたほうがよいのでは。

8ページの健康について、睡眠は非常に大事なことで、睡眠に関する質問を入れたほうがいいのではないかと思う。高齢になると睡眠時間が短くなるが、元気な人はぐっすり寝ている。

*議題（3）その他について

【会 長】 その他、事務局より連絡等があれば。

（事務局）なし